

## 窓

福島県教育センター

「窓」に寄せる思い  
「教育に寄せる心を開く小さな「窓」」  
小さな「窓」から広がる教育の世界が見えてきます。

## 変化に柔軟に対応しながら

部長 猪股 一教

2021年の干支は丑年。由来には諸説ありますが、会津地方に古くから伝わる郷土玩具「赤べこ」にあやかり、新型コロナウイルスが少しでも早く収束することを願ってやみません。

教育の現場では、昨年2月あたりからその影響を受け、卒業式、高校入試、終業式、入学式、始業式等への対応、さらに緊急事態宣言による臨時休業期間を経て、6月から学校始業となりました。また、本年1月13日から2月14日までの福島県新型コロナウイルス緊急対策期間等、本当に大変な一年になっています。先行きが不透明な中、試行錯誤を重ね、児童生徒の学びを支援するとともに公教育の継続に努めてこられました先生方に改めて敬意を表します。

今年度、当センターで実施されました各種研修はすべて日帰り研修となりました。残念ながら中止になった研修も多くありました。このような状況下において研修に参加された先生方の前向きな姿勢や研修後の感想等は、センター所員にとって言葉では言い尽くせないほど大きな励みとなりました。心より御礼申し上げます。

さて、教育の情報化に関する施策は以前より実施されていましたが、新型コロナウイルス感染症対策としての一面を担うことで、実施内容の工夫や改善が急務となりました。教師という専門職の責任を担い、学びの保障のために日々努力を重ねる先生方が、心身ともにストレスを抱えることがないように、ぜひ、当センターを活用していただければ幸いです。また、新学習指導要領が令和2年度から小学校で全面实施、次いで令和3年度から中学校、令和4年度から高等学校で年次進行で実施となることから、これらに対応できる、実践的・開発的な研究を進めております。以下にその例をいくつか紹介します。

## ○ 小・中学校におけるカリキュラム・マネジメント推進に関する研究

県内の公立小・中学校及び義務教育学校におけるカリキュラム・マネジメントへの取り組み状況や意識等に関する調査により、その推進のためのポイントを明確にするとともに、推進方法に関して、D-CAPサイクルを基軸としたカリキュラム・マネジメント推進のための戦略を校種に応じて提案しています。

## ○ 高等学校での学びを意識した小・中学校をつなぐプログラミング教育の在り方

第一年次に研究協力校でプログラミング的思考を身に付けた児童が、中学校に進学後、それを生かし発展させることができるかどうかを、技術・家庭科の技術分野及び数学科と理科において検証しました。さらに、中学校の授業実践を研究協力校（小学校・高等学校）へ発信することで、校種間の学びをつなげるための課題を明らかにすることができました。

## ○ メンターチームによる初任者研修を充実させる校内研修の在り方

令和2年度に新規採用となった本県の小・中学校及び義務教育学校の教諭を対象に実態把握調査を実施し、校内初任者研修における初任者支援の視点を提案することができました。また、小・中学校各1校を研究協力校としたメンターチームによるピア・サポートを踏まえた研修の実践を通して、初任者の心理的・職務的な支援につなげることができました。

これらの研究の詳細な内容につきましては、昨年11月の福島県教育研究発表会ですでに発表されております。なお、本年度末に発刊されます当センターの研究紀要にも掲載されますので、是非、ご一読下さい。

現在、指導主事派遣の出前講座の件数も増えていきます。教科・科目に関する講座では、複式指導や授業づくりなどの内容が多いですが、以下のようなICT関係や教育相談関係の件数も増えてきました。

- 情報モラル教育講座
- ICT活用基礎講座
- G Suite活用講座
- プログラミング教育講座
- 学級集団理解の進め方講座
- ～Q-Uの活用を通して～
- 児童生徒の人間関係づくり講座

最後になりますが、これからも、教員の研修や研究成果物の利用、指導主事等の派遣である出前講座、HP、各種出版物等により、当センターを貴園等及び貴学校の課題解決に積極的にご活用くださいますよう、重ねてお願いいたします。

また、先生方におかれましては、健康に留意されるとともに、今後ますますご活躍されることを祈り申し上げます。

本誌に関するご意見・ご感想、並びに研修に関するご質問等がございましたら、下記連絡先までお寄せください。

編集発行： 福島県教育センター 〒960-0101 福島市瀬上町字五月田16番地  
TEL 024-553-3141 (代表) FAX 024-554-1588  
URL <https://center.fcs.ed.jp/> E-mail center@fcs.ed.jp

# 中学校のプログラミング教育

～ 令和2年度 チーム研究より ～



## 中学校のプログラミング教育って、どんなことをするの？

中学校学習指導要領（平成29年度告示）では、技術・家庭科（技術分野）のプログラミングに関する**内容の充実**が図られました。また、他教科等における情報教育との**連携・接続**に配慮することが重要とされています。

そこで、研究協力校で実践した

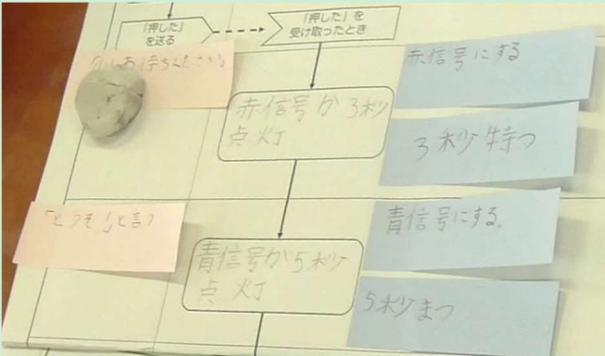
## プログラミング教育の授業実践を紹介します。



### プログラミング的思考を生かして、よりよいアプリを作ろう！ 第1学年技術・家庭科（技術分野）

#### まずは、押しボタン式信号機の仕組みを知ろう！

プログラミングの知識・技能を身に付けさせるために、みんなが安全に横断できる押しボタン式信号機を制作しました。初めに**信号機の動きを細かく分解**して考え、その動きをアクティビティ図で可視化してからプログラミングを行いました。その後、ペアで対話をしながらアクティビティ図とプログラムの**改善を繰り返し**、音声で注意を促す信号機などを制作しました。



付箋紙を使い信号機の動きを細かく分解



信号機がよりよくなるように改善

#### つぎに、便利な体育アプリを制作しよう！

押しボタン式信号機や数を数えるプログラムの学習を生かし、体育の授業で活用できるアプリを制作しました。「プログラムの手順をアクティビティ図で可視化」⇒「個人で考えたプログラムをグループで共有」⇒「グループで制作」を**繰り返し**、体育アプリがよりよくなるように**改善・修正**をしました。

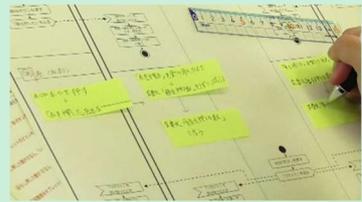
①数を数えるプログラムを制作  
(なわとび・体カテスト・球技の得点)



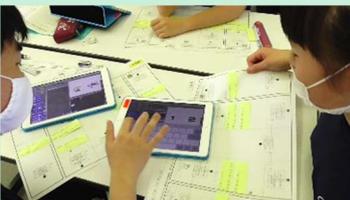
②数を数えるプログラムを活用した  
アプリを検討



③アプリの動作手順をアクティビティ図で可視化



④アクティビティ図からプログラム  
を制作



⑤試行錯誤を繰り返し、アクティビティ図とアプリを改善・修正



⑥各班で制作したアプリの発表・  
評価



## そして、こんな体育アプリが完成しました！

球技の得点板やタイマー、体力テストの回数測定器など、各グループが工夫して制作しました。

### 【あるグループの体育アプリ】

バスケットボールの審判がタブレット端末の得点別のボタンを押すと、得点板に合計点数を瞬時に表示させることができます。得点板のプログラムは、2点や3点ずつ点数を加えていくことができるように工夫されています。間違えて点数を入れてしまった時は、-1点のボタンもあります。



## 授業を通して、生徒の感想は、

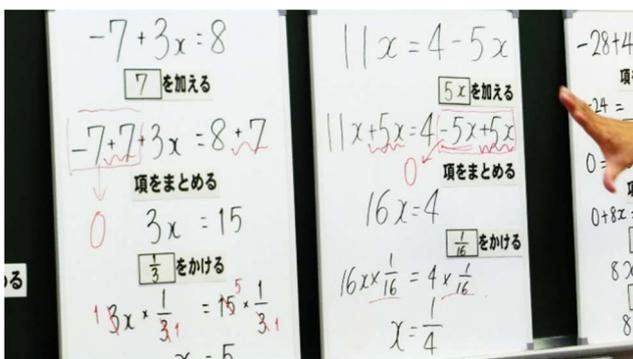
○今まで、頭の中で行ってきたプログラミング。可視化することで、みんなに伝えられるようになった。  
○班のアイディアで、とてもよいアプリができた。意見を言ったり聞いたりすることは大切だと学んだ。

## 技術分野で学んだことを、他の教科へ生かそう！

### ・第1学年 数学「方程式」

#### 3つの命令だけで方程式を解くには？

コンピュータに方程式の解き方を命令する手順を、命令カードで可視化して考える授業を行いました。コンピュータは「移項する」という命令が理解できないこととし、「項をまとめる」「加える」「かける」の3つの命令だけで計算するという設定にしました。個人で考えた**方程式を解く手順**をグループで共有し、対話をしながらまとめました。その後、各グループの**解き方の共通点**を確認し、解法についての理解を深めました。

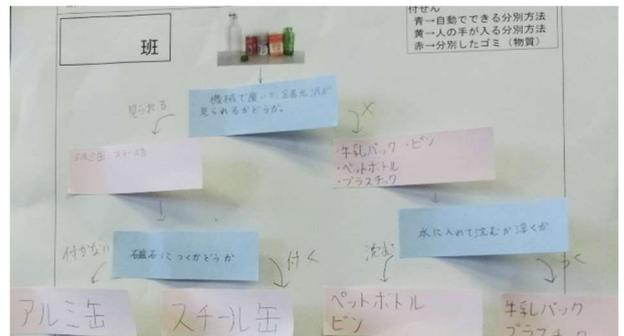


### ・第1学年 理科「身のまわりの物質」

#### ごみを効率的に分別する方法と手順は？

ごみ(物質)の分別方法と手順を、図で可視化して考える授業を行いました。分別する際の条件は、「確実に分別する」「できるだけ自動化する」「手順は少なく」の3つとしました。

各グループの分別方法と手順を共有し、対話をしながら提案した**分別方法は適切か**、どのような手順で行えば**効率的に分別できるか**を考えました。手順を改善したい場合は、付箋紙をはがすことができるので、何度も**付箋紙を貼り替えて改善**する様子が見られました。



研究協力校の子どもたちは、**小学校でプログラミングを体験**し、プログラムの働きやよさ、問題の解決には必要な手順があることに気付きました。その子どもたちが、**中学校でプログラミング的思考を生かして**プログラミングをしたり、技術分野で学んだことを他の教科へ生かして課題解決したりする姿が見られました。

詳しくは、福島県教育センター 研究紀要 第49・50集をご覧ください。



# ☆☆教育相談チームからの発信☆☆

「生徒指導上の諸課題に関する調査」から見えるもの ～令和3年度専門研修の紹介～

平成29年度～令和元年度までの「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査について」（文部科学省）の結果から見える課題への対応について、ご紹介いたします。

全国と本県の調査結果 ※ 表内の（ ）の数値は、1,000人当たりの数を表示します。

	暴力行為の発生件数【国公立の小・中・高等学校】					
	全国	本県	本県（公立学校）			合計
			小学校	中学校	高校	
平成29年度	63,325 (4.8)	502 (2.5)	225	183	80	488
平成30年度	72,940 (5.5)	576 (3.0)	287	186	79	552
令和元年度	78,787 (6.1)	990 (5.2)	535	338	64	937

	不登校の児童生徒数【国公立の小・中学校】				
	全国	本県	本県（公立学校）		
			小学校	中学校	合計
平成29年度	144,031 (14.7)	1,885 (13.2)	326	1,536	1,862
平成30年度	164,528 (16.9)	2,115 (15.1)	412	1,680	2,092
令和元年度	181,272 (18.8)	2,235 (16.4)	564	1,634	2,198

	いじめの認知件数【国公立の小・中・高・特別支援学校】						
	全国	本県	本県（公立学校）				合計
			小学校	中学校	高校	特別支援	
平成29年度	414,378 (30.9)	4,883 (24.3)	3,323	1,157	299	10	4,789
平成30年度	543,933 (40.9)	6,815 (34.7)	4,972	1,399	242	26	6,639
令和元年度	612,496 (46.5)	8,534 (44.7)	6,397	1,702	280	27	8,406

	不登校の生徒数【国公立高等学校 全日制・定時制】		
	全国	本県	本県（公立学校）
			（全日・定時）
平成29年度	49,643 (15.1)	442 (8.5)	396
平成30年度	52,723 (16.3)	381 (7.5)	340
令和元年度	50,100 (15.8)	434 (8.8)	384



本県の暴力行為の発生件数をみると、小・中学校において急増していますね。また、いじめの積極的な認知が進み、認知件数も大きく増加しています。さらに、不登校は、小・中・高校における1,000人当たりの出現数が増加しています。



教育相談チームでは、先生方の問題行動等への対応や、問題行動の未然防止を踏まえた適切な支援ができるようになることを目指した専門講座を開発しています。令和3年度の教育相談の専門講座を以下に紹介します。

## 教育相談系専門研修講座の紹介

B01・B02については、令和3年度より改編、B04は新設

**B01「学校教育相談基本講座」（1日の講座）**  
 ・学校教育相談の基本と相談面接演習の技法について学びます。  
 ・Q-Uによる個人理解や集団理解のアセスメントの仕方を学びます。  
 ※本講座を受講すると、次年度以降のB02「学校教育相談実践講座」が受講できるようになります。

**B02「学校教育相談実践講座」（1日×年3回の講座）**  
 ・自校の支援が必要な児童生徒についての事例研究を通して、多角的・多面的な視点で指導援助の方向性を検討します。  
 ・解決志向アプローチ、特別な教育的ニーズのある児童生徒の理解と対応、チーム学校における学校教育相談の在り方について、外部講師による講話をいただきます。  
 ※令和2年度までに実施した「学校教育相談基礎講座」を受講した方が対象となります。

**B03「人間関係に生かす予防・開発的教育相談講座」（1日の講座）**  
 ・学級・ホームルームで活用できる、構成的グループエンカウンター、ソーシャルスキルトレーニング、プロジェクトアドベンチャー等の教育相談的な手法について体験を通して学びます。  
 ・小・中学校と高校のそれぞれの実態に合った、校種別編でも学びます。

**B04「いじめの理解と対応講座」（1日の講座）**  
 ・いじめ防止対策推進法の理解を通して、いじめの未然防止や対処の仕方等について学びます。  
 ・事例などを通して、いじめの対応等を中心に、外部講師より講義をいただきます。

# チーム研究の紹介

研究主題 「メンターチームによる初任者研修を充実させる校内研修の在り方」 ～ピア・サポートを踏まえた研修を通して～

## 初任者の実態調査から分かったこと

令和2年度に新規採用となった小・中学校及び義務教育学校の初任者を対象とした「令和2年度初任者教員の実態に関する調査」の回答（有効回答者数340名）を統計的に分析した結果から、以下のような**校内研修における初任者支援の視点**を見いだしました。研究協力校においては、先輩教員が初任者の話を「傾聴」し、初任者が自分の悩みや困り事を「本音」で語り、「質問」できる研修としたことで、初任者自身が心理的・職務的な支援を受けながら成長する姿が確認されています。これらの視点からピア・サポートを踏まえた研修が大切であると考えます。

\* 同僚を支える活動

### 校内研修における初任者支援の視点

- ・ 初任者が本音で語れる研修であること
- ・ 初任者が質問できる研修であること
- ・ 先輩教員が傾聴する研修であること



アンケート調査結果と詳しい内容は、福島県教育センターの「令和2年度研究紀要・第50集」をご覧ください。

## 実践例紹介

メンター方式を導入した研究協力校において、先輩教員等のメンターチームが初任者支援のためのピア・サポートを踏まえた研修を実践しました。以下に研修の実践例をご紹介します。（本実践例においては、メンターチームによるピア・サポートを踏まえた研修を「ピア・サポ研修」と名づけた）

小学校における実践例	中学校における実践例
<p><b>【研修テーマ】</b>「保護者対応（電話対応）」</p> <p><b>【メンターチームメンバー】</b> 〈流動的メンターチーム〉 ・「研修の内容により、メンバーを募って実施」（新型コロナウイルス感染症の影響による多忙化を考慮）</p> <p><b>【研修時間】</b> 30分程度</p>	<p><b>【研修テーマ】</b>「質問に答えて（聞いてみたいこと）」</p> <p><b>【メンターチームメンバー】</b> 〈固定的メンターチーム〉 ・「メンターチームのメンバーを固定」 ・「メンターは、初任者、校長、教頭、研修コーディネーター、若手教員、中堅教員、ベテラン教員」</p> <p><b>【研修時間】</b> 30分程度</p>
<p><b>1（事前）初任者の困り事・悩みを把握</b></p> <p>保護者の電話対応に自信がありません…</p> <p>今度のピア・サポ研修で、保護者対応について取り上げてみるね</p> <p>初任者</p> <p>メンター</p>	<p><b>1（事前）初任者の聞いてみたい事を把握</b></p> <p>どのようにノート指導をすればよいか困っています…</p> <p>ピア・サポ研修で、メンターチームの先生方に相談してみよう</p> <p>初任者</p> <p>研修コーディネーター</p>
<p><b>2（事前）メンターが研修内容を企画</b></p> <p>初任者は保護者の電話対応に悩んでいます</p> <p>ピア・サポ研修で、保護者の電話対応を演習形式で実践してみようでしょうか？</p> <p>メンター</p> <p>研修リーダー</p>	<p><b>2（研修）初任者の聞いてみたい事を相談</b></p> <p>どのようにノート指導をすればよいか困っています…</p> <p>中堅教員</p> <p>ベテラン教員</p> <p>若手教員</p> <p>初任者</p> <p>研修リーダー</p>
<p><b>3（研修）メンターがモデリング</b></p> <p>うちの子が学校に行きたくないと…</p> <p>気持ちに寄り添って話さないと、こういうことか…</p> <p>保護者役</p> <p>担任役</p> <p>初任者</p> <p>それは心配ですね…</p>	<p><b>3（研修）それぞれの実践例を伝える</b></p> <p>私はこんなノート指導をしています</p> <p>生徒の理解を促しながら、指導していくことが大切なんだ！</p> <p>初任者</p> <p>研修コーディネーター</p> <p>ノートを使い方をこのように生徒に話し、理解を求めています</p>
<p><b>4（研修）メンターと初任者で演習</b></p> <p>うちの子が学校に行きたくないと…</p> <p>初任者の対応のよかったところを伝える</p> <p>メンター</p> <p>保護者役</p> <p>初任者</p> <p>それは心配ですね…</p> <p>保護者の気持ちを共感的に受け止めていました。具体的な対応を伝えていました</p>	<p><b>4（1か月後）指導の経過を確認</b></p> <p>ノート指導の悩みはどうなりましたか？</p> <p>〇〇先生のノート指導をまねて指導したら、生徒のノートが改善してきました</p> <p>研修コーディネーター</p> <p>初任者</p>
<p>事前に研修リーダーが、以下の例のような保護者から学校に寄せられることを想定した電話相談の事例を作成し、それをもとに電話相談演習を行った。初めに、ベテラン教員がモデリングを行い、どのように対応しているのかを見せた。その後、初任者と先輩教員による電話対応演習を行った。</p>	<p>事前に研修コーディネーターが、初任者と若手教員の悩みや困り事を聞き取り、一枚の資料にまとめて、メンターチームに配布した。資料を基に、初任者は、悩みや困り事を相談し、それぞれの相談を先輩教員が傾聴し、実践例の紹介や助言をした。</p>
<p><b>初任者からの感想</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者に直接会っているわけではない電話対応でどのように伝えるか悩んでいたが、今回の研修で先生方が保護者を気遣う言葉を積極的に使っていたので参考になった。</li> <li>・ 自分のよさを認めていただき、アドバイスをいただけたことが自信につながった。</li> </ul>	<p><b>初任者からの感想</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ノート指導では、先輩の先生の実践を少しずつ授業の中で取り入れるようにしている。</li> <li>・ 失敗談や成功談をお聞きすることができ、先輩も同じような頃に同じように悩んでいたということが分かった。</li> <li>・ 研修後も先輩方からの支援が得られた。</li> </ul>

## 令和3年度 図画工作・美術 専門研修講座 紹介

### 楽しみながら力を伸ばす図画工作科指導法講座

6月18日(金) 小学校・特別支援学校

子どもたちに創造することの楽しさを感じさせ、造形的な創造活動の能力を育てる図画工作の指導の在り方について学ぶ講座です。

東京学芸大学准教授の笠原広一先生を講師に、様々な素材を使い、アナログ・デジタルを効果的に組み合わせた表現活動や、鑑賞についての講義・演習を通して、題材開発や授業改善、評価のポイントを探ります。

ICTを活用した演習を通して、子どもたちが楽しみながら力を伸ばすことができる、魅力ある図画工作の授業づくりを考えます。



コマ撮りムービーの制作・鑑賞の演習

### 創造性を育む図画工作・美術の鑑賞指導法講座 【前期・後期】

【前期】8月6日(金) 【後期】11月2日(火) 小学校・中学校・高校・特別支援学校

美術館との連携による、本物との出会いを大切にしたい講座です。作品から感じ取ったこと、思いや考えを大切に、自分なりの意味や価値を発見し、対話を通して交流・共感しあうような、子どもたちの主体的な美術鑑賞について学びます。

前期は、福島県教育センターを会場に、美術による学び研究会会長の上野行一先生、福島県立美術館学芸員を講師に、講義・演習を通して様々な視点での鑑賞について考えます。後期は、福島県立美術館を会場に、美術作品の鑑賞を楽しみながら、実践的な演習を通して、子どもたちの鑑賞活動や指導方法のヒントを探ります。



福島県立美術館

### 創造性を育む美術の表現指導法講座

鶴翔窯ロゴマーク



10月14日(木)・15日(金) 中学校・高校・特別支援学校

美術の各分野(絵画・彫刻・デザイン・工芸・映像メディア表現)で活躍されているクリエイターを講師にお迎えし、作品制作を通して専門性を高めながら、多様な表現活動の指導に繋げる1泊2日の講座です。

今回は、デザイナーとしても活躍中の、会津大学短期大学部准教授の高橋延昌先生を講師に、様々な素材や技法による制作を通してデザインの魅力と可能性を探り、専門性と指導力を高めます。コロナ禍で考案された簡易紙製マスク「Petra Mask」の開発や、ロゴマーク・パッケージ・マスコットデザインなど、地域活性化に繋がるデザインに関する講義・演習を通して、生活を豊かにする美術、社会におけるデザインの役割、目的や機能などを考えた発想や構想について学びます。



Petra Mask

高橋延昌准教授のデザインワーク



起き上がり小法師ポスター

あいづじげん

## 令和3年度 図画工作・美術 自主講座 紹介

### 先生のための図画工作・美術鑑賞指導法講座

9月25日(土)郡山市立美術館 11月20日(土)いわき市立美術館

郡山市立美術館、いわき市立美術館を会場に、美術館やコレクションの魅力に触れ、作品を楽しみながら感じ取る力や思考する力を一層豊かに育むための講座です。

鑑賞用の教材を活用した演習などを通して、様々な視点から美術鑑賞の在り方について考えます。



郡山市立美術館



いわき市立美術館

### 美術鑑賞入門講座

12月4日(土)

授業で実践的に活用できる鑑賞の基礎的な知識・技能を楽しく学ぶ講座です。



# 高等学校理科 観察・実験・授業づくり講座

令和3年度に教育センターで予定している、高等学校理科の専門研修「高等学校理科観察・実験・授業づくり講座」について紹介します。

## 期日

令和3年10月4日(月)～5日(火)

## 日程・内容

### 1日目

- ① 大学教授等による講義・演習
- ② 「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れた観察・実験

### 2日目

- ③ 「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れた授業づくり
- ④ 大学教授等による講義・演習

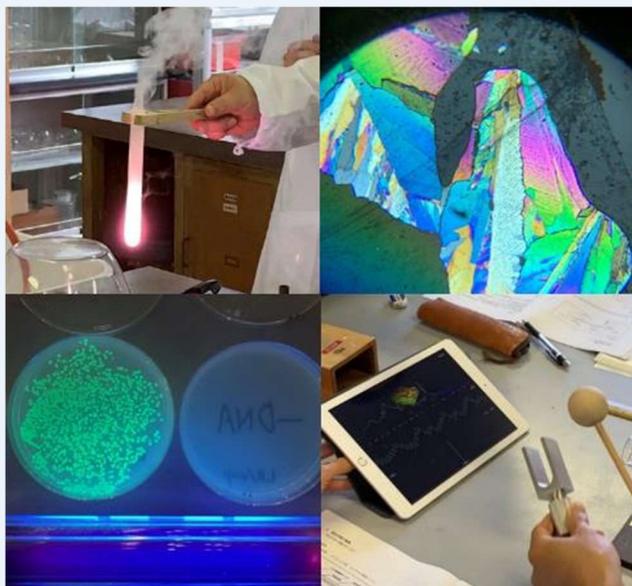
## 大学教授等による講義・演習

本講座では、研究機関や大学の先生をお招きして、最新の専門的な研究についての講義や、各分野における専門的な実験についての講義・演習を行っています。

令和3年度は、宇宙航空研究開発機構(JAXA)宇宙科学研究所で月惑星探査プロジェクトに携わっておられる春山純一氏による講義「月探査機SELENEによる月の謎の解明」、福島県立医科大学医学部で分子細胞生物学分野の研究に携わっておられる松岡有樹氏による講義・演習「身近な生物の観察・実験」の2講座を予定しています。最新の研究から、これからの教育に求められる「探究」の本質について考えていきます。



## 「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れた観察・実験



令和4年度から、高等学校においても新学習指導要領が全面実施となり、「自然の事物・現象を科学的に探究するための資質・能力を育成する」ために、各科目の観察・実験を授業の中でどのように行っていくかが重要になります。従来多く行われてきた、教師が用意した実験を教師の指示にしたがって生徒に行わせる授業だけでは、新学習指導要領が求める生徒の資質・能力の育成にはつながりません。

本講座では、生徒が主体的に観察・実験に取り組み、対話的で深い学びを行っていくための観察・実験の進め方について、実際に観察・実験を行いながら考えていきます。講座は、物理・化学・生物・地学の4分野から2つを選択して受講することができます。自身の専門分野を深めるだけでなく、専門外の分野を積極的に学ぶなど、分野の選び方は自由です。

## 「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れた授業づくり

授業は「単に教科書をなぞって行う」ものではありません。生徒のどのような資質・能力を育成したいのかを明確にして、学問的な本質を捉えつつ、指導する生徒の実態に合わせて、「教科書などの教材を活用して行う」ものです。

そのためには、単元という内容や時間のまとまりを見通して、その単元での生徒の学びや思考が自然な流れとなるように授業を組み立てていくことが重要となります。本講座では、「単元構想シート」の作成を通して、「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れた授業づくりについて考えていきます。



## 令和2年度 福島県教育研究発表会

「明日の 福島の 教育をつくる」をスローガンに、福島県教育研究発表会を11月26日(木)に当センターにおいて開催しました。

当センターのチーム研究及び長期研究員等による研究の発表や福島大学 教育推進機構 高等教育企画室 特任准教授 前川 直哉氏による講演「新しい学び 福島から」が行われました。

おかげさまで、御来賓を含め170名を超える皆様に参加いただきました。参加者からは「児童生徒が主体的に学び、試行錯誤して課題を解決していくために、教師が様々な手立てを講じている研究の発表を聞くことができました。」など、これを機に授業改善につなげようとする感想をたくさんいただきました。後援をいただきました福島県小・中学校長会、福島県高等学校長協会に厚くお礼申し上げます。来年度も更り多き研究発表会とするために準備を進めております。ぜひ多くの皆様の御参加をお待ちしております。



### 令和3年度福島県教育研究発表会のお知らせ

日 時：令和3年11月25日(木) 9時50分開会  
内 容：各種研究発表及び講演

## 来年度の研修講座から

### GIGA スクール構想に向けた研修講座

令和2年度、GIGAスクール構想の前倒しに対応するため、当センターでは10月20日(火)と12月4日(金)に公立学校長計118名参加のもと、「校長のためのPC一人一台時代におけるICT活用講座」を開催しました。東北学院大学 教授 稲垣 忠 氏の講義、当センター指導主事等によるG Suiteの演習及び協議を通し、研修に参加された校長先生方はICT活用の有用性を改めて実感され、これからの学校教育における情報化の展望を具体的に見出されるなど、充実した研修となりました。

来年度、すべての基本研修でICT活用に関する研修を実施するとともに、専門研修では「授業力向上のためのICT活用基礎講座(義務系)」、「グループウェアで活用するG Suite実践講座」、「ワークショップで学ぶ情報モラル教育講座」、「ICTで変わる音楽の授業づくり講座」及び「ICTを活用した保健体育の授業づくり講座」の6講座を開講します。また、県内公立学校等の教職員の研修支援である出前講座では「ICT活用基礎講座」、「クラウドサービス活用講座」、「プログラミング教育講座」及び「情報モラル教育講座」の4講座を開講いたします。さらに、県で導入しているG Suite活用に向けた自主講座として「基礎から学ぶG Suite入門講座」を新設いたします。

### 学校の教育力向上をめざす研修講座

当センターでは、学校現場における先生方の授業力向上や様々な教育課題への対応をめざす専門研修を行っております。専門研修は、申し込みの締切期日は市町村立学校については4月16日、県立学校については4月30日となっております。

令和3年度は、教科教育系(32講座)・教育相談系(4講座)・情報教育系(5講座)・教科外教育系(4講座)の全45講座の開講を予定しております。新たに「ICTで変わる音楽の授業づくり講座」、「思考力・判断力・表現力を育む器楽指導法講座(ギター編)」、「いじめの理解と対応講座」、「養護教諭のための指導力向上講座(保健教育編)」の4講座の開講に加え、土日を利用した自主講座として、「美術鑑賞入門講座」、「基礎から学ぶG Suite入門講座」、「子どものためのロボットワークショップ」、「先生のための図画工作・美術鑑賞指導法講座」を開講します。ぜひ御参加ください。

### 教育センター利用時のお願い

当センター西側の河川改修により、当センターの駐車可能台数が少なくなりました。乗り合わせや公共交通機関の利用をお願いすることがありますので御協力ください。



福島県教育センターURL  
<https://center.fcs.ed.jp/>